

事業報告書

自 令和 4 年 4 月 1 日
至 令和 5 年 3 月 31 日

I. 事業活動に関する事項

[主催事業]

1. KAWASAKI しんゆり映画祭

■ 第 28 回 KAWASAKI しんゆり映画祭 2022 (本祭)

期日：2022 年 10 月 30 日 (日)、11 月 3 日 (木・祝) ～6 日 (日)

場所：川崎市アートセンター アルテリオ映像館 (113 席) ・アルテリオ小劇場 (195 席)

□ 本祭実施概要

- 主 催 NPO 法人 KAWASAKI アーツ
- 理 事 長 藤田朝也
- 企画・運営 NPO 法人 KAWASAKI アーツ・KAWASAKI しんゆり映画祭実行委員会
- 委 員 長 岡村浩志
- 共 催 川崎市 川崎市アートセンター 川崎新都心街づくり財団 川崎市教育委員会
- 特別後援 日本映画大学 昭和音楽大学
- 後 援 「映像のまち・かわさき」推進フォーラム、
NPO 法人しんゆり・芸術のまちづくり、麻生区文化協会

●協賛・協力

新百合ヶ丘エリアマネジメントコンソーシアム 小田急電鉄株式会社 ホテルモリノ新百合丘
新百合丘農住都市開発株式会社 川崎信用金庫 株式会社川崎フロンターレ
株式会社エーイーティー 司法書士佐伯啓輔事務所 税理士法人小林会計事務所
新百合ヶ丘エルミロード 有限会社柿生恒産 株式会社カジノヤ 川崎商工会議所
河津造園土木株式会社 新百合ヶ丘商店会 セレサ川崎農業協同組合 三井ホーム株式会社
オーヴ株式会社 陸前高田地域振興株式会社 カンガルー チャンキー・チャンキー Ti-da Bar
パティスリーエチエンヌ Dining 旬 株式会社あかもと本舗 しんゆり会計 わかみや
株式会社北島工務店 株式会社エリアブレイン イオンシネマ新百合ヶ丘
イオンスタイル新百合ヶ丘 かわさきママのわ事務局 グリーンバード新百合ヶ丘チーム
Link mama ロコッチ新百合ヶ丘 cafe peas カフェリリオス Babydoor 株式会社

- 上映作品数 13 作品 ●登壇 13 名 ●本祭総入場者数 1574 名 (昨年比 30%増) ●ボランティア 45 名

●リーフレットキャッチコピー 「迷ったときこそ映画をみよう」

●上映作品と企画枠

【自分のわくわくにしたいがう】「名付けようのない踊り」「夢みる小学校」

【大好きになる、夢中になる】「ハケンアニメ!」「サマーフィルムにのって」
「ミラクルシティコザ」

【自分らしく生きたい】「マイスマールランド」「ツユクサ」「グレート・インディアン・キッチン」
「犬部!」

【今観るべき知られざる名作】「未知への飛行—フェイル・セイフー」

【これからの濱口竜介】「偶然と想像」

【佐藤忠男先生追悼上映】「オールド・ドッグ」

【しんゆりこどもシアター】「長くつ下のピッピ」（日本語吹替版）

【しんゆりバリアフリーシアター】

・副音声イヤホンガイド付き作品…「ツユクサ」

・バリアフリー日本語字幕付き作品…「名付けようのない踊り」「ハケンアニメ!」

・音声ガイド・字幕ガイドアプリ対応作品…「名付けようのない踊り」「マイスマールランド」
「ハケンアニメ!」「偶然と想像」

合計 13 作品

【トークイベント登壇者】（敬称略、順不同）

〈登壇〉平山秀幸（監督） 小林聡美（俳優） 田中泯（出演者） 篠原哲雄（監督）

オオタヴィン（監督） 西郷孝彦（出演者） 川和田恵真（監督） 嵐莉菜（俳優）

森田健司（映画評論家）

〈オンライン登壇〉犬童一心（監督） 田中泯（出演者） 吉野耕平（監督） 平一紘（監督）

流水りんこ（漫画家）

合計 13 名

動員数データ チケット売上枚数 1427 枚 招待 214 名 観客動員数 1574 名

有料プログラム数 13 プログラム（13 作品） 合計上映回数 25 回

映画祭のテーマ「映画とともに まちとともに」のもと、2022 年度は「迷ったときこそ映画をみよう」をキャッチコピーに、感染症や世界情勢などで不安が社会を覆うなか、「生きる力」「自分の生きる道」に焦点をあてた作品を中心に上映を行った。各種ガイドラインを参考に、客席の使用を通常に戻し、期間を 5 日間、プログラム数 13 作品で計 25 回の上映を行い、1574 人のお客様にご来場いただいた。

「しんゆりフェスティバル・マルシェ」などの地域イベントにも積極的に参加し、「映画」を通じた街との交流へ注力することができた年となった。イベント参加時には映像の仕組みを塗り絵で紹介する「ソーマトロープうちわ」や、集めたアンケートを本祭会場の会場装飾にするなどの施策も行い、多くの市民に「KAWASAKI しんゆり映画祭」を通して「映像のまち・かわさき」に参加していただける活動となった。



■ オープニング理事長挨拶



■ 小林聡美氏 平山監督「ツユクサ」



■ 篠原監督「犬部！」



■ 田中泯氏 (11/4)
「名付けようのない踊り」



■ 田中泯氏 犬童監督 (11/6)
「名付けようのない踊り」



■ オオタヴィン監督 西郷氏
「夢みる小学校」



■ 平監督
「ミラクルシティコザ」



■ 流水りんこ氏
「グレート・インディアン・キッチン」



■ 森田健司氏
「未知への飛行-フェイル・セーフ-」



■ 川和田監督 嵐莉菜氏「マイスモールランド」



■ 吉野監督「ハケンアニメ！」

□ バリアフリーシアターの実施

映画祭で 25 年間取り組んでいる「バリアフリーシアター」は、だれもが参加しやすい映画祭を目指し、今年も活動を行った。

今年は「ツユクサ」に対して独自で副音声ガイドをつけて上映を行った。新百合ヶ丘駅からの送迎サービスも行い、7 組 11 名の利用者に映画をお届けすることができた。

上映作品の中で、副音声ガイドのアプリ「UD-Cast」「HELLO!MOVIE」の対応作品が増えたことに対して、駅から会場までの送迎対応ができるスタッフを増やすための研修にも取り組んだ。対象作品の開場時は、文字案内の掲示や、アプリ利用の説明対応が行われた。

保育付き上映は新型コロナウイルス感染症対策のため、サービスの提供が難しく見送ることとしたが、今年は子育て世代の声を集める活動に注力し、地域の子育てを応援する団体との座談会や、子育て中の親へ向けたアンケートを実施した。保育付き上映のほかに、どのようなサービスが求められているか生

の声が多く集まった。その声をもとに、親子観劇室の利用案内や、子ども向けチラシの作成など新たな試みを行うことができた。新たな観客の獲得やだれもが参加しやすい映画祭へつながる重要な試みとして、今後も取り組んでいきたい。



■バリアフリー送迎研修



■座談会の様子

【協力】

かわさきママのわ事務局
グリーンバード新百合ヶ丘チーム
Link mama
ロコッチ新百合ヶ丘

■ジュニア映画制作ワークショップ 協賛：小田急電鉄株式会社

内容：「アイデアを映像に！みんなでストップモーションアニメーションをつくろう」

期間：2022年12月4日（日）～2023年1月15日（日） 計6回

場所：新百合21ホール第2会議室・川崎市アートセンター3Fコラボレーションスペース

講師：廣木綾子（ディレクター・アニメーター・デザイナー）

参加者数：9名

川崎市とその周辺に在住・在学している中学生を対象とした映画制作ワークショップ。

コロナ禍の中でのオンラインでの開催を行っていたが、今年度はリアル開催を再開させた年となった。昨年度に引き続き、ディレクター・アニメーターとして映画・テレビで活躍する廣木綾子氏を講師に招き、ストップモーションアニメーションのグループ制作を行った。「しんゆり映画祭」をモチーフにした課題に取り組み、2分のアニメーションを完成させた。ワークショップ終了後の2月26日（日）に保護者や関係者を招いた完成披露試写を行い、参加者が完成した作品を見せることの重要性を再認識することができた。広報として10月下旬より川崎市教育委員会の協力により、市内公立中学校生徒に参加募集チラシを配布した。



■ジュニア映画制作ワークショップの様子



■なつやすみ野外上映会 麻生区区制 40 周年記念事業 麻生区地域課題対応事業

期日：2022 年 8 月 20 日（土） 場所：川崎市立百合丘小学校 校庭 参加者数：157 名(雨天)

2000 年から毎年開催してきた野外上映会は、2020 年と 2021 年度は新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、中止となったため 3 年ぶりの開催となった。今年は、例年の麻生区地域課題事業に加え、麻生区区制 40 周年記念事業として開催。広報活動は、麻生区のホームページ、KAWASAKI しんゆり映画祭のホームページや SNS での発信のほか、タウン誌への掲載、区内施設へのチラシ配布等を 6 月下旬より展開した。

今回の上映会では、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策として、全席指定・事前申込制が導入された。また、例年雨天時は体育館で実施していたが、密を避けるため雨天・荒天中止とする体制で行った。客席はスクリーン前方にシート席（校庭に白線でエリアを仕切り、持参したシートを使用していただく）と、後方椅子席も一席分離した配置を行い、来場者同士の距離を避けられる仕様とした。来場希望者は麻生区ホームページの専用フォームまたはハガキで申し込みを行い（申込締切は 7 月 26 日までとした）、通知はハガキの郵送によって行った。

当日の対応としては、会場入口および場内での検温・手指消毒の励行のほか、マスク着用をお願いなどの対策がとられた。「LINE コロナ」の利用推奨も行った。終了後、感染者およびクラスター発生の報告はなかった。

イベント内容は、18 時開場で、18 時 30 分から区長挨拶、映画祭実行委員長挨拶、議員紹介に続き、映画祭スタッフによるジュニア映画制作ワークショップミニ「アニメーションって？」と、昨年度のワークショップ「いざ！コマ撮りアニメーションの世界へ」制作作品の上映を行った。その後、『ブックラポッタと森の時間』『眠れない夜の月』の上映を行い、20 時に終了した。日中の準備段階から天気が安定せず、小雨が降ったり止んだりを繰り返していたこともあり、来場者が定員数の半数程となったが、来場者からは「楽しかった」「ありがとう」との声を掛けていただいた。



■ウェルカムボード



■会場入口の様子



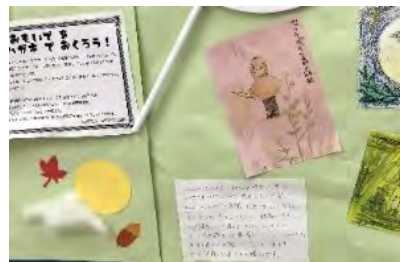
■ミニワークショップの様子



■上映前の会場の様子



■上映時の様子



■後日寄せられた上映会の感想や絵葉書

<ボランティアスタッフの活動>

■ ボランティアスタッフ募集説明会（令和 5 年度）

会場参加説明会：2023 年 3 月 11 日（土） 会場：川崎市アートセンター

オンライン説明会（録画）：2023 年 3 月 12 日（日）～4 月 17 日（月）

新規ボランティアスタッフ募集説明会を上記日程で実施。昨年から引き続き、次年度のスタッフ募集を 3 月に行うことで、活動開始時期の早期化を図った。会場での参加型と合わせて、説明内容を収録して、希望者に配信を行った。ボランティアスタッフ募集の告知方法は例年どおり、市内公共施設へのチラシ配布、市政だより、映画祭ホームページ等で行った。1 年間を通して参加できるスタッフを募集し、2022 年度は 45 名での活動となった。（映画祭スタッフの活動期間は、4 月～翌年 3 月）。ボランティアスタッフの活動セクションは、プログラム選定（経験 2 年以上）、バリアフリーシアター、ジュニア映画制作ワークショップ、総務、地域連携、広報にそれぞれが属して活動を行った。

■ ボランティアスタッフ個別面談

令和 4 年既存スタッフ向け

2022 年 2 月 18 日（土）～19 日（日） 会場：新百合 21 ホール・事務局

令和 5 年度新規スタッフ向け（第 1 回締切分）

2022 年 3 月 25 日（土） 会場：新百合 21 ホール・事務局

既存スタッフに対しては継続意向の有無および活動中の感想や改善希望などをヒアリングする場として、新規スタッフ希望者に対しては映画祭での活動内容を説明し、参加希望動機と沿わない部分がないかを確認していただく場としていただいたほか、映画祭からは活動時の注意事項や問題発生時の対応方法などを説明する場とした。

■ ボランティア全体会（全 11 回）

期間：2022 年 4 月～2023 年 3 月

内容：映画祭事業の連絡、各セクションの活動報告・打合せ、ボランティア交流

会場：川崎市アートセンター 新百合 21 ホール ほか

ボランティア全体が集まる全体会を 1 か月に 1 回程度実施した。今年度は毎月上旬の土曜日を中心に開催された。映画祭実行委員会で協議された情報の共有や軽作業（ダイレクトメール発送準備など）も行われた。昨年度に引き続き、コロナウイルス感染症への対応の為、オンライン会議室システムも併用して行った。2022 年度の開催日は 4/16、5/14、6/4、7/9、8/6、9/3、10/1、12/10、1/14、2/4、3/4 の計 11 回。



■ 全体会の様子

■ ボランティアスタッフ研修

期日：2022年10月29日（土）

内容：ボランティア研修 ～施設利用ガイダンス 会場：川崎市アートセンター（小劇場・映像館）

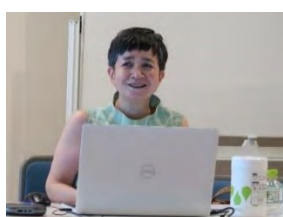
川崎市アートセンターをメイン会場として映画祭を実施していることから、アートセンター職員の協力を得て施設の特徴や利用方法について、研修を実施した。2つの会場で使用内容や注意点が異なることもあり、各会場を実際に見ながら、使用方法、避難経路の確認、設備の特徴の確認を行った。接客のポイント、災害時の対応など多岐にわたる研修は、新規のスタッフはもちろん長年映画祭のスタッフを務めてきたメンバーも改めて再確認を行う場となり、本番前に欠かせないものとなっている。



■ ボランティアスタッフ勉強会

実施日：2022年7月9日（土） 会場：新百合21ホール 第1会議室

今年度は映画祭の役割などについて、コミュニティシネマセンター事務局長の岩崎ゆう子氏を講師に迎えて「地域・市民活動としての『映画祭』とは？」というテーマで講義をしていただいた。勉強会当日に向けて、スタッフには2020年度に収録配信を行った「連続 ONLINE 公開講座」を再度視聴する機会を提供した。勉強会当日は、今年から参加したスタッフも含めて活発な意見交換と質問の場となった。



■ 岩崎ゆう子氏



「地域・市民活動としての『映画祭』とは？」

<関係等との連携>

■ 共催・特別後援・後援団体との合同連絡会

共催・特別後援・後援団体との連絡体制の強化のため、川崎市、川崎市アートセンター（川崎市文化財団）、川崎市教育委員会、(一財)川崎新都心街づくり財団、日本映画大学、昭和音楽大学、「映像のまち・かわさき」推進フォーラム、NPO 法人しんゆり・芸術のまちづくり、麻生区文化協会へ声かけを行い、合同連絡会を実施した。8月3日には、各映画祭事業の内容の概要の共有し、意見交換を行った。10月6日には本祭での上映予定作品を含めた詳細を共有し、意見交換を行ったほか、新型コロナウイルス感染症拡大状況を鑑みて、最終的な開催の可否の判断基準を確認した。本祭終了後、12月20日には本祭実施内容の報告や次年度に向けての意見交換を行った。

■ 地域イベント等への参加・連携

毎年参加をしている「しんゆりフェスティバル・マルシェ」や「あさお区民まつり」のほか、子育て支援団体の主催する地域イベントにも参加するなど、「映画」を通じた街との交流へ注力することができた年になった。イベント参加時には映像の仕組みを塗り絵で紹介する市民スタッフ考案の「ソーマトロープうちわ」やイベント来場者にアンケートを行い、本祭会場の会場装飾にするなどの施策も市民スタッフのアイデアで実施された。

今後も多くの市民に「KAWASAKI しんゆり映画祭」を通して「映像のまち・かわさき」に参加していただけるように、活動を行っていきたい。今年から「新百合ヶ丘エリアマネジメントコンソーシアム」のコミュニティ会員へ参加させていただき、様々な視点から地域を考えるきっかけを得ることができた。



■しんゆりフェスティバルマルシェ



■あさお区民まつり



■まちのひろば祭り



■アートと音楽で夏まつり

8/27 (土) 「アートと音楽で夏まつり」 場所：川崎市アートセンター・コラボレーションスペース
参加内容：ソーマトロープうちわ 参加者数 25 名

9/17 (土) 「あさお子育てフェスタ」主催：麻生区役所 場所：麻生区役所・保健ホール
内容：子育て支援団体との座談会の報告展示、野外上映会への感想ハガキの展示
「あさお子育てフェスタ」来場者数：約 2,500 人(メイン会場：1,900 人、その他：600 人)

9/23 (金・祝) 「まちのひろば祭り I♥あさお」主催：あさお希望のシナリオ実行委員会
場所：麻生区役所・保健ホール 参加内容：ソーマトロープうちわ 参加者数 60 名

10/8 (土) 「しんゆりフェスティバル・マルシェ」主催：新百合ヶ丘エリアマネジメントコンソーシアム
場所：新百合ヶ丘南口ペDESTリアンデッキ
参加内容：チケット先行発売、上映作品の人気投票、私の好きな映画アンケート (参加者数 100 名)

10/9 (日) 「あさお区民まつり」主催：あさお区民まつり実行委員会 場所：麻生区役所前
参加内容：シネマウマ塗り絵、上映作品の人気投票、私の好きな映画アンケート (参加者数 100 名)

10/12 (水) 「ふらっとリビング」主催：ふらっと新百合ヶ丘
参加内容：ソーマトロープうちわ・塗り絵 参加者数 20 名

2023/1/31 (日) 「映像のまち・かわさき」推進フォーラム全体交流会
主催：「映像のまち・かわさき」推進フォーラム
参加内容：オンライン集会へ岡村実行委員長が登壇し、映画祭活動を紹介

2023/2/19 (日) 「カフェグランデあさお」 主催：NPO 法人しんゆり・芸術のまちづくり
参加内容：ソーマトロープうちわ、活動報告展示 参加者数 40 名
※「映像のまち・かわさき」推進フォーラムによる映画祭連携企画 「実相寺昭雄監督のパネル展示」

・「新百合ヶ丘南口クリーンアップ大作戦」(5/28)と、「グリーンバード新百合ヶ丘チーム」(毎月第3日曜日)の新百合ヶ丘駅周辺の清掃活動に参加。活動を通じて、地域の方々との交流の輪を広げることができた。

<活動の詳細>

■ 4月～8月 プログラム選定

2016年から「スタッフ内から作品案を募り、投票して上映を検討する」という方法を取り入れて7年目となった。プログラムセッションでの継続企画の作品選定や調整等を4月～8月まで定期的に会議を実施し、確定させた。



■ 8月～10月 広報宣伝物、WEB ページ等の作成

プログラム決定を受け、チラシの制作やホームページの更新等を行った。Facebook・twitterのほか、更新頻度が低かったインスタグラムに関して、詳しいスタッフが参加したことで、例年より多くの情報を投稿することができた。チラシはA4サイズ12ページ仕様で作成、上映作品情報に加えて、子育て世代向けのサービスのヒアリングとして行ったアンケートや座談会の様子の紹介や街の情報なども入れた内容となった。今年は子育てしやすい街という新百合ヶ丘の特徴に注目し、「しんゆりこどもとおさんぽ MAP」も作成された。まちの清掃活動を行っている団体やイベントの紹介も行い、新百合ヶ丘という街の持つ魅力や集う人々の活動を発信することができた。



■ 9月～11月 広報活動

映画祭がスタートした1995年から実施している駅前でのポスター展を今年も実施した。また、川崎市の協力による川崎駅アゼリアビジョンでの予告編の放映、麻生区の協力による駅前のバスターミナルの柱巻広告も実施した。小田急電鉄の協力による駅構内への映画祭ポスターやのぼりの掲示、川崎市アートセンターでの予告編上映など、効果が期待できる広報を中心に展開された。



■ ペDESTリアンデッキ
新百合ヶ丘駅南口



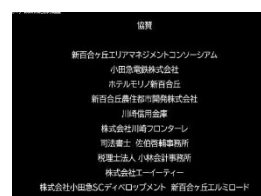
■ バスロータリー
柱巻き広告



■ 新百合ヶ丘駅内での
ポスターとのぼり掲示



■ アゼリア展示スペース
ポスター掲示



■ アルテリオ映像館での
予告編上映

■ 今年度の総括と来年度への取組み

2022年度の本祭ではコロナウイルス感染症のガイドラインを鑑み、客席数を通常に戻しての開催となった。川崎市アートセンター映像館・小劇場を会場に、10/30(日)、11/3(木・祝)～11/6(日)の5日間の開催で、プログラム数13作品で計25回の上映を行い、1574人のお客様にご来場いただいた。

ご回答をいただき来場者アンケートは760件になり、96.8%のお客様から「非常によかった」「よかった」の評価をいただいた。単体上映回では10/30の「ツユクサ」が1番の入場者数を記録した。当日はゲストにもご登壇をいただけ、多くの観客にご来場いただくことができた。

バリアフリーシアターでは副音声イヤホンガイド付き上映と、聴覚障がい者向け日本語字幕付き上映が行われた。今年は「ツクサ」に対して、独自に副音声ガイドを制作し、上映を行った。聴覚障がい者向け日本語字幕付き上映は、「名付けようのない踊り」「ハケンアニメ！」を上映した。副音声・字幕ガイドアプリの普及により上映作品のうち4本がアプリ対象作品となり、利用者の選択の幅が広がっていることが実感された。今年度は「保育付き上映」を行うことができなかったが、子育て世代向けのアンケートを行い、今後のサービスに反映をさせていきたい。来年度は、聴覚障がい者向けのアンケートを行い、より利用していただけるサービスを行っていきたい。

広報については、例年行っている川崎市と麻生区を通しての媒体の他、麻生区協力による柱巻き広告や小田急電鉄の協力による駅構内のポスター設置、麻生図書館での企画棚の作成、設置も継続して行われた。また、10月前半の映画祭期間外に川崎市アートセンターで映画祭上映作品の予告編を流していただく取り組みも継続して行われた。アゼリア展示スペースでのポスター掲示や、宮前図書館の移動図書館での図書紹介、新百合ヶ丘駅内のポスター掲示など、新たにご協力をいただくことができた。

本祭では、インターネット会議システムを利用した会場でのオンライン登壇を今年も準備し、スケジュールの難しいゲストや遠方からのゲストにご登壇をいただくことができた。コロナ禍を経て、新たな登壇形式として今後も続けていきたい。会場へお越しいただいたゲストとお客様の距離は、ガイドラインで推奨される距離を確保していたが、実際にお越しいただいた際のお客様の熱量の高さを強く感じた年でもあった。今後も、しんゆり映画祭の特徴である作品にちなんだイベントの実施を、市民らしい発想や視点で提案していきたい。今年の新たな試みとして、日本映画大学の調査協力により、今年の上映作品のうち6作品に日本映画大学ご関係者が関わられていることがわかり、会場で掲示を行った。新百合ヶ丘から「映画」の新しい担い手が育まれていることを衆知するきっかけになればと企画され、新百合ヶ丘ならではの取り組みとなった。

子育てしやすい街でもある新百合ヶ丘の魅力を発信する「しんゆりこどもとおさんぽMAP」の作成を行ったほか、地域のイベントや清掃作業へ積極的に参加することで、街や人との繋がりを持つことができた。今後も映画を通して、地域や市民活動ともつながる企画を行い、地域の特色と強みを活かした映画祭を目指していきたい。

スタッフ向けの勉強会として、映画祭の役割などについて、コミュニティシネマセンター事務局長の岩崎ゆう子氏を講師に迎えて「地域・市民活動としての『映画祭』とは？」というテーマで講義をしていただいた。勉強会当日に向けて、スタッフには2020年度に収録配信を行った「連続 ONLINE 公開講座」を再度視聴する機会を提供し、今年から参加したスタッフも含めて活発な意見交換と質問を行う場となった。今後も映画祭スタッフの学びや意見交換の場を積極的に設けていきたい。

ジュニア映画制作ワークショップでは、「アイデアを映像に！みんなでストップモーションアニメーションをつくろう」と題して、3年ぶりのリアル開催になり、グループでの制作を行うことができた。実際に集まったの映像制作は、参加生徒同士のコミュニケーションと、それぞれが個性を活かして活躍していく姿が見られ、今後もこの経験を提供していきたい。ワークショップ終了後には保護者や関係者を招いた完成披露試写を行い、見せるところまで行うことの重要性が改めて感じられた。

2022年度の市民スタッフは45名で、高校生から70代まで幅広い年代が映画祭に参画した。22名の新規スタッフが参加してくれた年となり、作業スケジュールの遅延や、当日の運営スタッフ人数の確保に関しては、改善の道筋が見えてきた。今後も多くの新しいスタッフを迎えながら、組織として継続した目標の共有と、ノウハウの継承も意識的に行っていきたい。

[企画・制作事業]

バリアフリーシアター制作事業

1997年より活動している「バリアフリーシアター制作事業」は2021年で24年目を迎えた。

(1) 視覚障がい者向けの音声ガイド制作

川崎市アートセンターからの委託3作品および当NPO主催事業しんゆり映画祭の1作品に対して音声ガイド台本を作り、外国語のセリフは日本語吹替を行い、副音声ガイド台本は朗読してCDに録音した。

【1】『メイドインバン格拉ディッシュ』

【2】『ツユクサ』（しんゆり映画祭上映作品）

【3】『ドリームホース』

【4】『どん底』

(2) 新型コロナウイルス感染拡大（パンデミック）下における音声ガイド制作

自治体のまん延防止措置に伴い発表された基本的な感染防止策に沿って制作活動を行った。

① 吹替の録音は、2日間で個別に実施

声優の希望日時に従い、録音技術者が時間割（30分～3時間程度/1人）を作り収録を行った。

② 収録時に注意事項を声優に配布し、内容は感染状況と照らし見直し

（注意事項は、少人数での収録に限定したための時間の指定や、手指消毒、マスク着用、換気、体調管理等）

③ 可能な作業は、リモートで実施

(3) 今後の課題と抱負

●活動の基本姿勢は、作品そのものを損なわず、副音声を利用して映画を鑑賞者が各々描くイメージを狭めることがない音声ガイド作りを目指す。

●バリアフリーシアター制作活動を通して勉強会を行う。

●問題点や課題をオープンにして意見を求め解決していきたい。

●6月初めの収録時にスタッフに聞いた、やってみたい勉強会の項目は以下の通り

・朗読 ・アフレコ ・録音ソフトを使った録音 ・音声ガイドを作る為の進行全般 ・字幕ソフトを使った日本語字幕制作の勉強会

●スタッフには、勉強会で得た知識やスキルを音声ガイドの制作活動に活かし、質の向上と安定して供給できる体制を維持できるように様々な場面での参加を求めていく。

2. 劇団わが町

アートセンター創設時より、ふじたあさやを中心に企画した市民のための市民による新百合ヶ丘の市民劇団。2012年6月に生まれた新しいゆるやかな劇団。劇団員は地域住民の方々を中心に構成されている。年齢制限はなく、前回公演時、総勢43名9～81歳までのメンバーが所属。しんゆりシアターのライン

ナップの一翼を担い、長期的に様々な創造活動を行なっている。

■しんゆりシアター 劇団わが町

第12回公演「わが町しんゆり」

開催期間：2022年12月2日（金）～4日（日）全5回公演

ライブ配信12月3日（土）13：00～12月17日（土）13：00まで

会場：川崎市アートセンター アルテリオ小劇場



■公演チラシ



■作品場面写真



■作品場面写真

2022年は、劇団創設10年目、川崎市アートセンター開設15年目となる節目の年。節目の年に出発点に立ち返り、劇団通算第12回目公演の演目には『わが町しんゆり』の再演を選んだ。

ワイルダーの『わが町』オリジナル版と同じ舞台上で同時進行で「しんゆり版」が展開される、新百合ヶ丘とニューハンプシャー州の普遍的な人の営みがミックスされて立ち現れる舞台となっている。劇団創設から10年経ち、市民自身が劇団を育て、観客や街との関係も構築し育んできた10年。その営みも含めて舞台に反映しようとする試みともなった。

コロナ禍と言われてから3度目の公演となるが、3公演ぶりにマスクを着用なしでの公演となった。但し、稽古と歌の場面はマスク着用にて実施。

稽古期間中は、消毒や換気を実施し、出演者・関係者・スタッフ全員がPCR検査を受け全員陰性を確認した上で、公演を開催した。結果、劇団内からも来場者からも感染の報告はなく、無事公演を終了することができた。なお、オンライン配信を今回も実施した。

作・構成・演出：ふじたあさや

当法人は、例年と同様、本公演の企画・制作を担った。

[委託事業]

本年度は、なし

II 運営組織の状況に関する事項

1. 組織運営

法人理事会では、メーリングリストを使用した情報共有、承認事項や、報告および連絡の円滑化を図った。

今年度の映画祭の運営も、登録スタッフの中から立候補と投票で選出された実行委員長と実行委員とで、映画祭実行委員会を立ちあげた。2022年度は、実行委員長に市民ボランティアスタッフが就き、映画祭は、法人理事会の承認を得ながら、企画・運営を行った。実行委員会議は、毎月実施した。

映画祭事業の進捗および情報の共有のため昨年度から実施している共催者合同連絡会を、共催・特別後援・後援含む関係団体との合同連絡会に変更し、3回実施した。

また、一昨年度に財源確保対策部会準備会で作成した「KAWASAKI しんゆり映画祭・財政対策アクションプラン」をもとに、進捗の管理・確認等を行った。

2. 事務局運営

事務局は、法人事務局として年間を通じて1名、映画祭事務局として5月～翌1月の9カ月間（1～5月は月間数日程度）1名を加えて運営された。

3. 事業展開

2022年度は、映画祭事業の他の文化事業として、バリアフリー副音声日本語吹替え制作、劇団わが町企画・制作を行った。

3. 役員

役員の名前及び職制上の地位

地位／氏名／専門

理事長／藤田朝也／演劇・ミュージカル

理事／黒田隆／音楽

理事／千葉茂樹／映画・映画祭

理事／森正敏／演劇

理事／岩倉宏司／宣伝・広報

理事／大谷賢治郎／演劇

理事／平松多一／演劇・映画祭

理事／岡村浩志／映画祭

監事／白鳥あかね／映画・映画祭

シニア・アドバイザー／下八川共祐／昭和音楽大学理事長

シニア・アドバイザー／岩崎敬／環境デザイナー

以上

貸借対照表

令和4年3月31日現在

特定非営利活動法人KAWASAKIアーツ

(単位:円)

科目		金額	
I	資産の部		
	1. 流動資産		
	現金預金	6,358,381	
	未収金	1,400,007	
	流動資産合計		7,758,388
	2. 固定資産		
	(1) 有形固定資産		
	車両運搬具	0	
	什器備品	0	
	その他の有形固定資産	0	
	有形固定資産計	0	
	(2) 無形固定資産		
	ソフトウェア	0	
	無形固定資産計	0	
	(3) 投資その他の資産		
	敷金	0	
	投資その他の資産計	0	
	固定資産合計		0
	資産合計		7,758,388
II	負債の部		
	1. 流動負債		
	未払金	0	
	前受民間助成金		
	短期借入金	3,044,918	
	未払費用	0	
	未払法人税等	70,000	
	預り金	23,080	
	仮受金	5,600	
	流動負債合計		3,143,598
	2. 固定負債		
	長期借入金	0	
	退職給付引当金	0	
	固定負債合計		0
	負債合計		3,143,598
III	正味財産の部		
	前期繰越正味財産		4,252,760
	当期正味財産増減額		362,030
	正味財産合計		4,614,790
	負債及び正味財産合計		7,758,388

活動計算書

令和4年4月1日から令和5年3月31日まで

特定非営利活動法人 KAWASAKIアーツ

(単位:円)

科目	金額	
I 経常収益		
1. 受取会費		
会員受取会費	80,000	80,000
2. 受取寄附金・協賛金		
受取寄附金	325,000	
受取協賛金	100,000	425,000
3. 受取助成金・委託金等		
川崎市負担金	6,000,000	
日本芸術文化振興助成金	1,200,000	
麻生区地域振興課 区委託金	995,650	
文化財団委託金	275,000	
その他助成金・委託金	200,000	8,670,650
4. 事業収益		
①芸術文化を通じたまちづくり事業収益(映画祭事業)		
チケット販売物販収益	1,658,800	
広告収益	1,090,000	
ジュニア参加費	72,000	
その他収益	174,680	
②文化芸術振興事業収益		
バリアフリー委託費(文化財団)	1,189,460	
映画製作費収益	0	
その他収益	0	4,184,940
5. その他収益		
受取利息	77	
雑収益	1,171,676	
借入金債務免除益	0	1,171,753
経常収益計		14,532,343
II 経常費用		
1. 事業費		
(1) 人件費		
給料手当	4,300,000	
福利厚生費	146,577	
雑給	0	
謝礼	0	
人件費計	4,446,577	
(2) その他経費		
フィルム仕入	1,539,431	
その他仕入	88,290	
広告宣伝費	1,072,343	
リース料	319,220	
地代家賃	1,861,480	
事務用消耗品費	75,697	
通信交通費	1,089,769	
外注費	1,601,228	
交際費	76,812	
保険料	41,070	
備品消耗品費	368,970	
管理諸費	255,750	
会議費	228,000	
新聞図書費	408	
租税公課	3,000	
諸会費	14,000	
支払手数料	2,915	
印刷費	291,285	
雑費	724,068	
その他経費計	9,653,736	
事業費計		14,100,313
2. 管理費		
(1) 人件費		
役員報酬	0	
.....		
人件費計	0	
(2) その他経費		
会議費	0	
.....		
その他経費計	0	
管理費計		0
経常費用計		14,100,313
当期経常増減額		432,030
III 経常外収益		
1. 固定資産売却益		0
過年度損益修正益		0
経常外収益計		0
IV 経常外費用		
1. 過年度損益修正損		0
.....		0
経常外費用計		0
税引前当期正味財産増減額		432,030
法人税、住民税及び事業税		70,000
当期正味財産増減額		362,030
前期繰越正味財産額		4,252,760
次期繰越正味財産額		4,614,790

※今年度はその他の事業を実施していません。

財産目録

令和5年3月31日現在

特定非営利活動法人KAWASAKIアーツ

(単位:円)

	科目	金額	
I	資産の部		
	1. 流動資産		
	現金預金	6,358,381	
	未収金	1,400,007	
	流動資産合計		7,758,388
	2. 固定資産		
	(1) 有形固定資産		
	車両運搬具	0	
	什器備品	0	
	その他の有形固定資産	0	
	有形固定資産計	0	
	(2) 無形固定資産		
	ソフトウェア	0	
	無形固定資産計	0	
	(3) 投資その他の資産		
	敷金	0	
	投資その他の資産計	0	
	固定資産合計		0
	資産合計		7,758,388
II	負債の部		
	1. 流動負債		
	未払金	0	
	前受民間助成金		
	短期借入金	3,044,918	
	未払費用	0	
	未払法人税等	70,000	
	預り金	23,080	
	仮受金	5,600	
	流動負債合計		3,143,598
	2. 固定負債		
	長期借入金	0	
	退職給付引当金	0	
	固定負債合計		0
	負債合計		3,143,598
	正味財産		4,614,790